

G-2 ベルケイドの治療による末梢神経障害に対応した観察表作成の取り組み

○斉藤静香、峯友梢、吉田佑子、野上さとみ

NTT 東日本関東病院

【目的】患者がベルケイドの副作用を自己観察できる表を作成し、治療中の継続観察に役立つ。【方法】観察表を作成する。観察項目は、医師・看護師・薬剤師の3職種が共同し、運動神経に関する3項目、感覚神経に関する7項目をあげた。患者が容易に末梢神経障害を観察できるよう日常生活動作で項目を設定した。評価は『なし』『少しあり』『強くあり』とした。観察表は持ち運びしやすいように冊子にした。観察表の使用は、平成20年7月から1年間にベルケイドの治療をした入院患者で、同意を得られた11名を対象とした。参加の自由、プライバシーの保護などの倫理的配慮を行った。看護師は、入院中の治療導入時に観察表の使用方法を説明し、患者に副作用の観察の視点や方法を確認した。退院後、患者は外来に観察表を持参し、医師・看護師が副作用の確認を行った。【結果】調査期間中、ベルケイドの治療を継続できた患者は8名であった。8名が全ての期間で観察表を使用でき、医療者との情報共有に役立てられた。観察表の使用期間は2週間から9ヶ月間であった。【結論】日常生活動作で観察項目を設定したことで、患者がわかりやすく観察でき、治療の継続につながった。患者が外来に冊子を持参し、医療者と結果を共有することは、患者の治療への意欲を持つことに繋がったと考える。